

集落を守る機運醸成

「1年たつのは早えのう」
「あと何年、こうやってで
きるかのう」…。12月中旬
の土曜日、中津市三光佐知
の地域おこしグループ「竹
馬会」の集会所に、50代以
上の男女約30人が集まっ
た。近くの温泉施設からの
注文で、イベントで配る餅
をつくためだ。

男女で作業を分担し、手
際よく20時のもち米をつき
あげた。「そろそろ、お茶
にするかえ」の声を合図に、
餅の一部を酢じょうゆやき
な粉で味付けし、頬張った。
「こうやってたき火に当た

「泥田バレー」25年で幕

りながら、ワイワイやるの
が一番のコミュニケーションシ
ョンじゃ」。メンバーに笑顔
が広がった。

竹馬会は今年、高齢化を
理由に25年続いた泥田バレ
ーボール大会の幕を閉じ
た。しかし、年末年始も門
控えている。

松作り、初詣客へのかっぱ
酒の振る舞い、どんどこ焼き
などさまざまな年中行事が
控えている。

竹馬会「活動これからも」

県内各地に誕生したが、高
齢化に伴い活動が停滞する
ケースも増えてきた。竹馬
会の佐知地区も高齢化率こ
そ30%台とそれほど深刻で
はないが、若手の参加が減
っているという。「泥田バ

竹馬会は1987年、佐
知地区の有志(約200世
帯)で結成した。泥田バレ
ーの他にも、直径2尺の大
鍋「千人鍋」を活用して各
種イベントに出張。最近で
は東日本大震災からの復興
を後押しする「福島里親プ
ロジェクト」にも参加して
いる。初代会長の川野公人
さん(79)は「草刈りやらい
ろんなことに力を合わせ、
集落を皆で守ろうという機
運ができた」と胸を張る。

若手の参加が減る
竹馬会のような地域づく
りグループは80年代以降、
に気落ちした様子はない。
「若い人たちは仕事や子育
てなどに忙しく、無理は言
えない。彼らに余裕ができ
るまではわしらが頑張る」
と川野さん。相良卓紀事務
局長(57)は「地域が続く限
り、会の活動に終わりはな
い。高齢化の中でも何がで
きるのか、模索していきたく
い」と前を向いた。



温泉施設から注文された餅をつく作業の合
間に、つくたての餅を食べながら談笑する
竹馬会のメンバー＝14日、中津市三光佐知